

蒲田駅東口駅前広場 初動期整備デザイン基本プラン
本編

令和元年8月
大田区

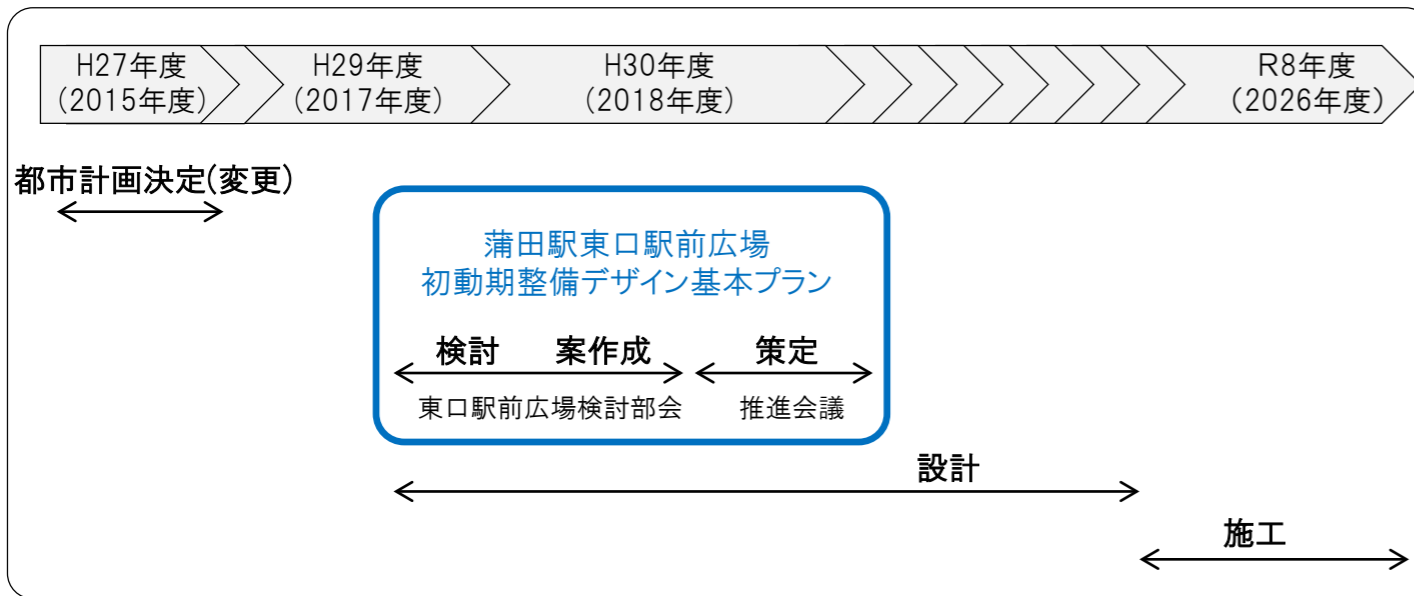
I. はじめに

1. 東口駅前広場検討部会について

(1) 設置の目的

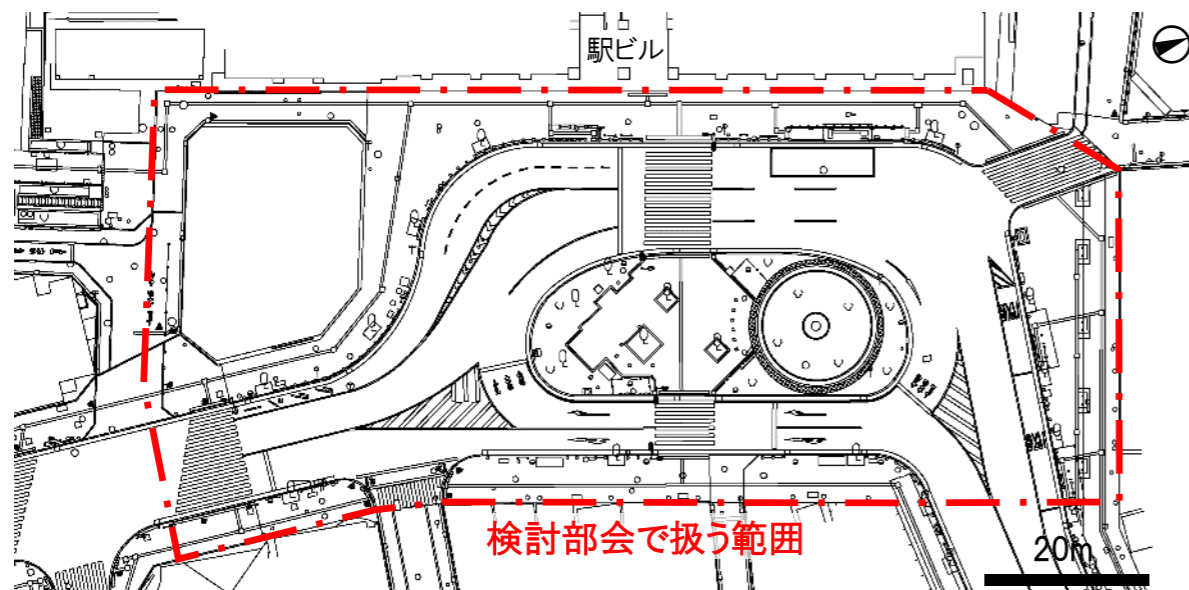
「蒲田駅周辺再編プロジェクト」では、蒲田駅周辺の現況と課題を抽出し、東口駅前広場の課題解決に向けた初動期整備について整理を行いました。この度は、東口駅前広場初動期整備におけるコンセプトをまとめ、設計へ反映する「蒲田駅東口駅前広場初動期整備デザイン基本プラン」を策定するために、蒲田都市づくり推進会議の下部組織にあたる東口駅前広場検討部会(以下「検討部会」という)を設置します。

蒲田駅東口駅前広場初動期整備の流れ(予定)



(2) 検討部会で扱う範囲

検討部会内では、下図に示す範囲の地上施設について扱い、主に初動期コンセプト、駅前広場整備方針、施設配置計画、色彩計画に関する方針を定めます。



(3) 構成員名簿(平成30年度)

職	所属団体	氏名
委員	蒲田東口地区まちづくり協議会会長	藤田 静男
委員	本蒲田一丁目町会長	山根 洋二
委員	蒲田一丁目自治会長	佐々木 一夫
委員	蒲田四丁目町会長	小山 君子
委員	蒲田東口町会長	柳 豊純
委員	京浜蒲田町会長	小櫃 真人
委員	蒲田三丁目町会長	衛藤 武近
委員	蒲田五丁目南町会長	後藤 満春
委員	蒲田東口商店街商業協同組合理事長	岩下 充博
委員	京浜蒲田商店街協同組合理事長	上野 洋子
委員	あやめ商店会会長	勝間 忠雄
委員	蒲田再開発推進委員会委員長	田中 常雅
委員	特定非営利活動法人 大身連	宮澤 勇
委員	大田区まちづくり推進部都市開発担当部長	青木 重樹
委員	大田区まちづくり推進部都市開発課長	大木 康宏
委員	大田区まちづくり推進部拠点まちづくり担当課長	大見 真吾
委員	大田区まちづくり推進部副参事	三本木 淳治
委員	大田区まちづくり推進部都市計画課長	榊原 健司
委員	大田区都市基盤整備部都市基盤管理課長	保下 誠
委員	大田区都市基盤整備部都市基盤計画調整担当課長	谷田川 泰
委員	大田区都市基盤整備部建設工事課長	浦瀬 弘行
委員	大田区都市基盤整備部地域基盤整備第二課長	大田 健二
委員	大田区地域力推進部蒲田東特別出張所長	塩沢 昇
委員	大田区環境清掃部環境対策課長	長谷川 正
オブザーバー	大田区まちづくり推進部長	齋藤 浩一
オブザーバー	大田区都市基盤整備部長	久保 輝幸
事務局	大田区まちづくり推進部都市開発課	

(4) 開催状況

開催回	日付	検討内容
第1回	2017.12.11	検討部会の位置付け、検討範囲、上位計画・関連計画の整理
第2回	2018.7.9	検討部会のスケジュール等の確認、東口駅前広場デザイン検討スペースの確認、東口駅前広場キーワード出し
第3回	2018.8.29	第2回検討部会の主な意見、コンセプト案の検討、オブジェの設置可否、喫煙所の設置可否と配置の考え方
第4回	2018.10.31	第3回検討部会の主な意見、第3回検討部会の整理、施設配置の確認、色彩計画の確認と選択
第5回	2018.12.17	第4回検討部会の主な意見、デザイン基本プラン(素案)の確認
展示会	2019.3.6~8	デザイン基本プラン(素案)のパネル展示、3D動画上映、アンケート

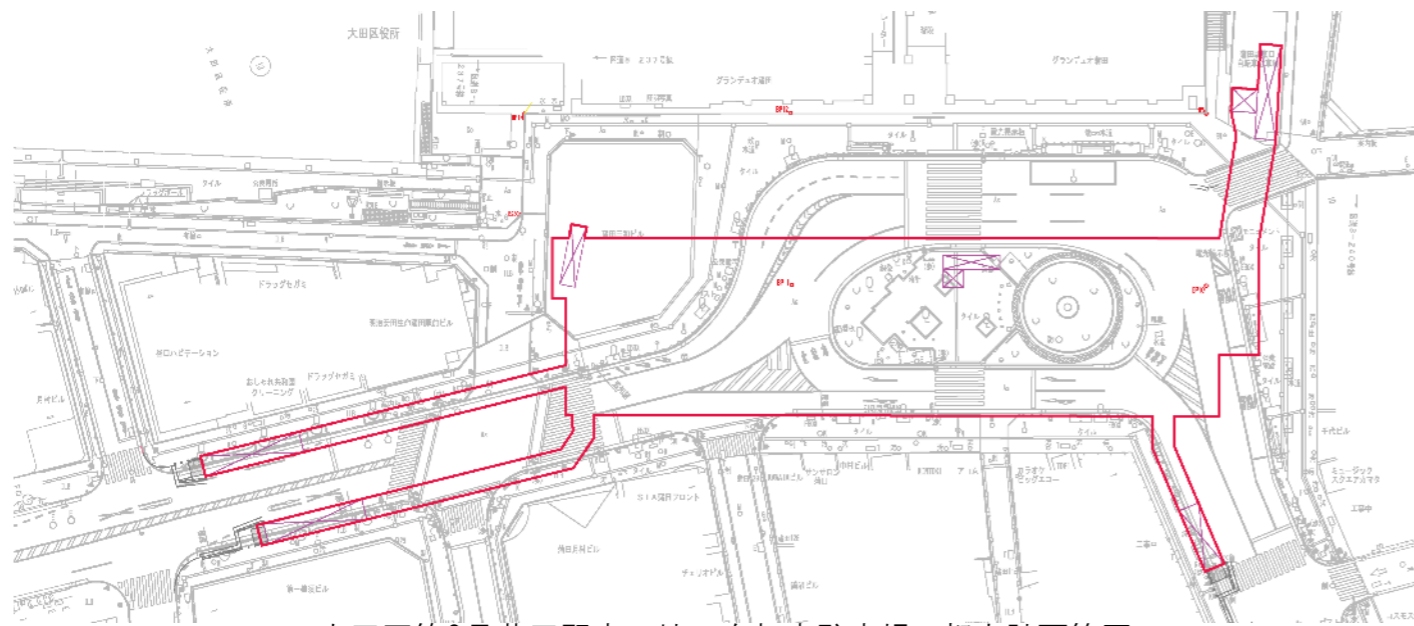
I. はじめに

2. 都市計画決定と事業計画

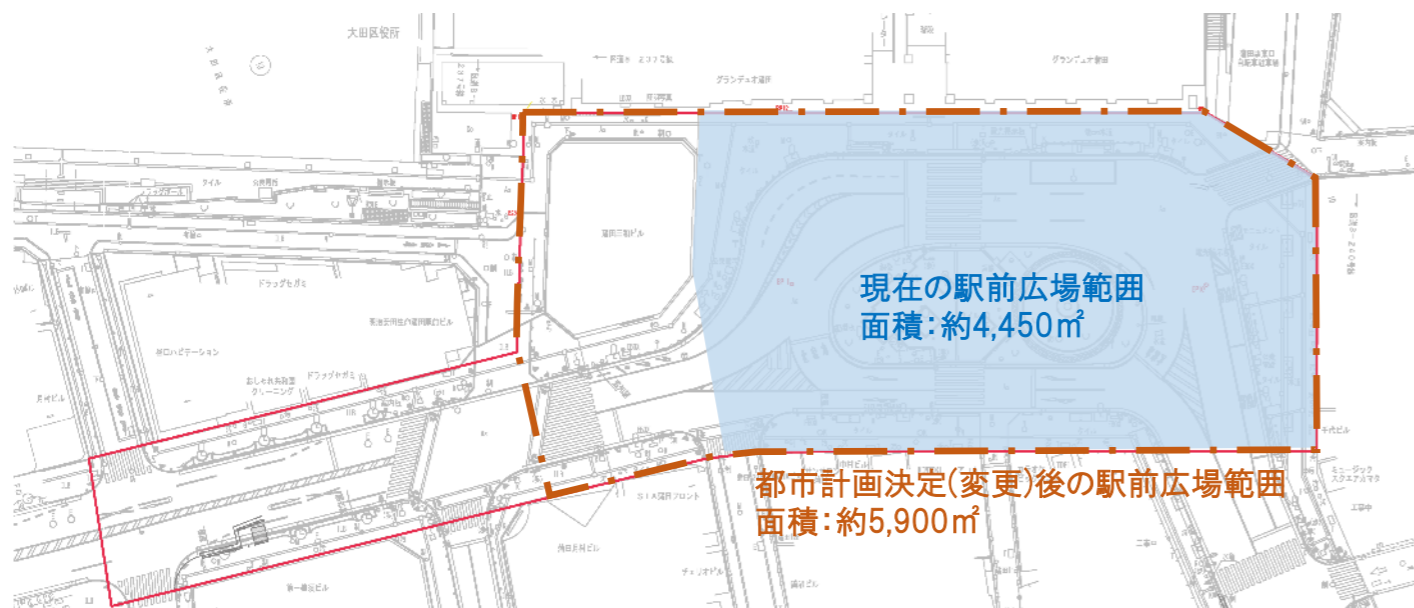
「蒲田駅周辺再編プロジェクト」で示されるとおり、東口駅前広場の初動期整備では、地下自転車駐車場が整備されます。

地下自転車駐車場都市計画決定(大田区告示第55号)と東口駅前広場都市計画変更(大田区告示第54号)は、平成28年2月10日に行われています。

都市計画決定後の平成28年4月28日、東京都から事業認可を受けています(東京都告示第909号及び911号)。



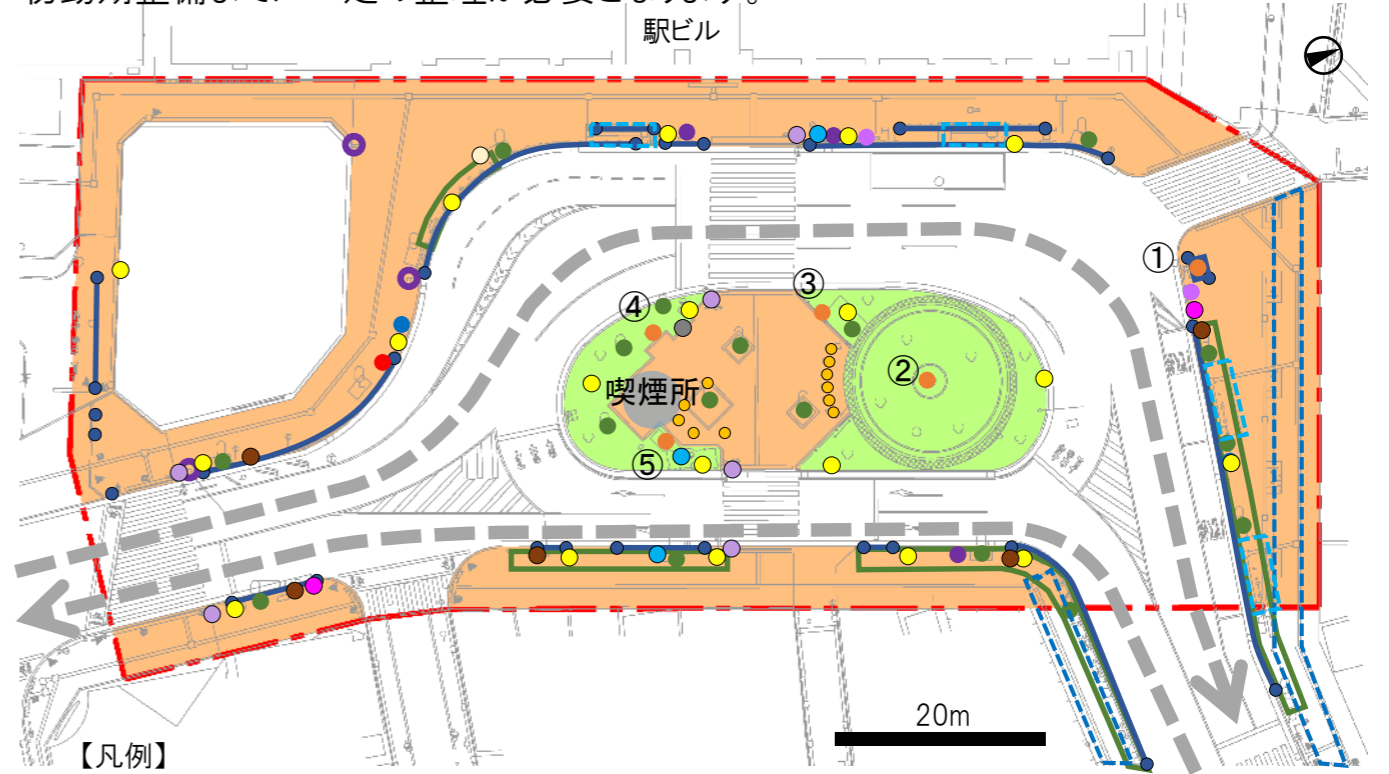
大田区第9号蒲田駅東口地下自転車駐車場の都市計画範囲



大田区画街路第7号線の都市計画範囲

3. 現況施設配置

現在の東口駅前広場には、照明や樹木といった道路附属物の他に、オブジェやシェルターなどの道路占用物件も設置されています。これらの施設については、東口駅前広場初動期整備までに一定の整理が必要となります。



現況施設配置図

【凡例】

- 駅前広場範囲
- 歩行者空間
- 樹木(中高木)
- プランター
- 案内サイン
- 誘導サイン
- 防護柵
- 消火器
- スツール
- 照明
- 時計
- 一般自動車の動線
- 植栽空間等
- オブジェ
- アーケード
- シェルター
- 信号機
- 信号・照明制御装置
- 電話ボックス
- 郵便ポスト
- 宝くじ売り場
- キュービクル
- 電光掲示板

駅前広場に設置してるオブジェ



①翼



②上昇気流



③希望



④躍進工業蒲田



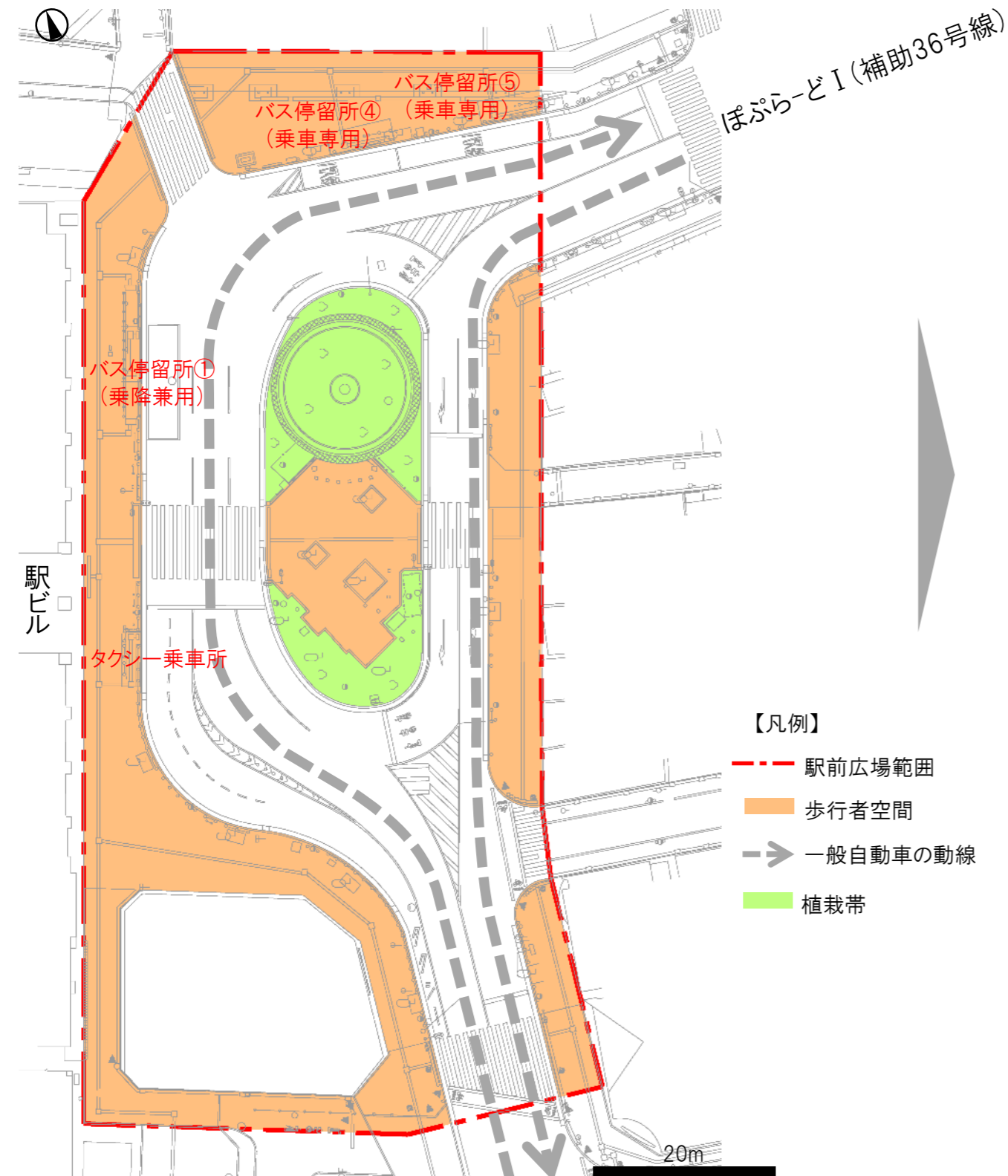
⑤モヤイ像

II. 「蒲田駅周辺再編プロジェクト」における初動期東口駅前広場レイアウト

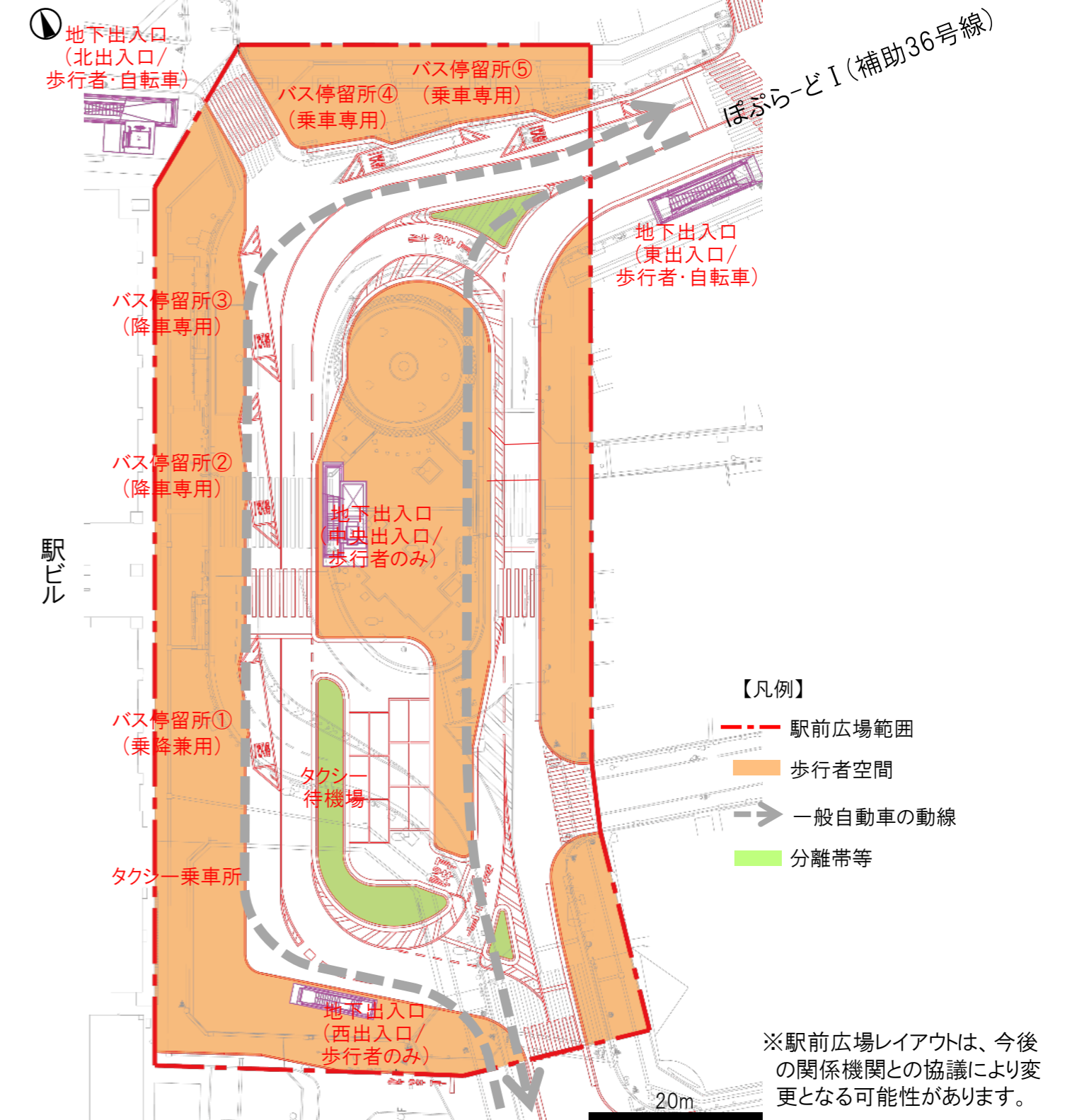
東口駅前広場の初動期整備における現況からの主要な変更点としては、以下が挙げられます。

A. 駅前広場の南方向への拡大 B. 駅ビル側歩道の拡幅 C. 地上出入口の設置 D. タクシー待機場の設置 E. ぼぷらード(補助36号線)に設置されている降車場を駅ビル前歩道へ移設
現況と計画の駅前広場レイアウト図を以下に示します。

現況駅前広場レイアウト図



計画駅前広場レイアウト図



Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

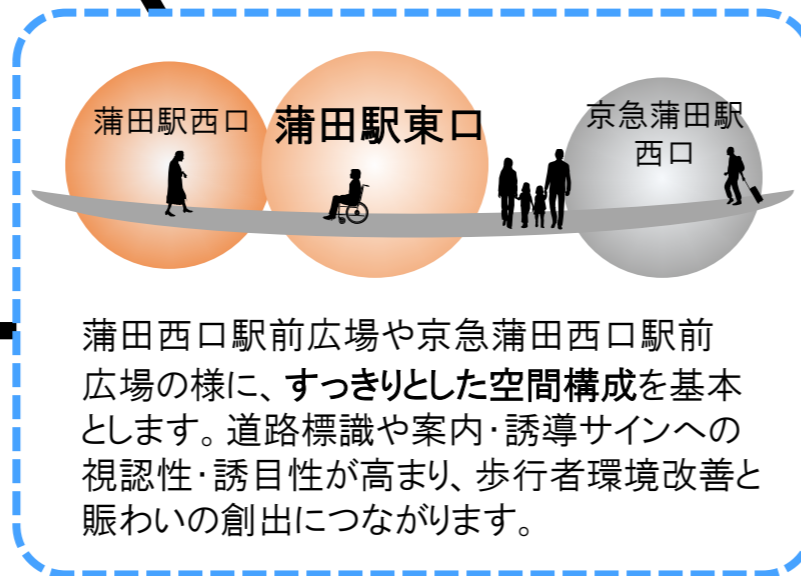
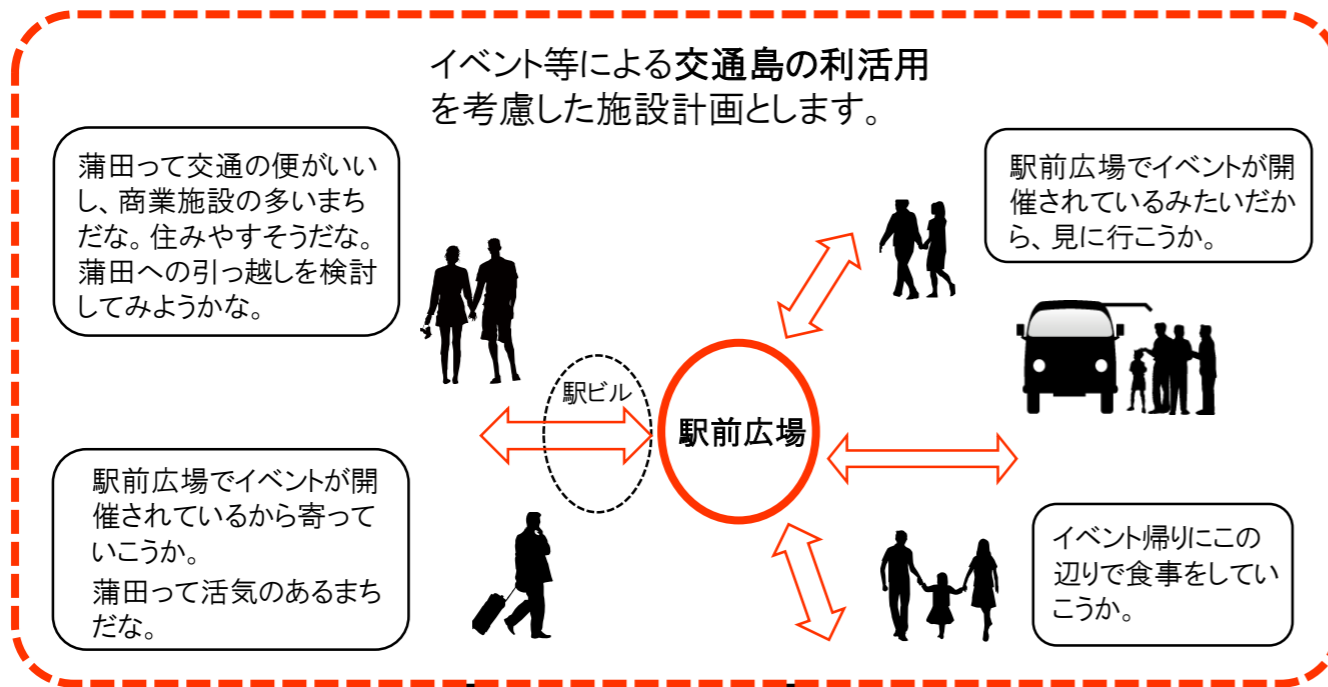
1. 東口駅前広場 初動期整備コンセプト

上位計画・関連計画及び検討部会内で委員から寄せられた意見を基に、以下に示す初動期整備コンセプトを定めました。

東口駅前広場 初動期コンセプト

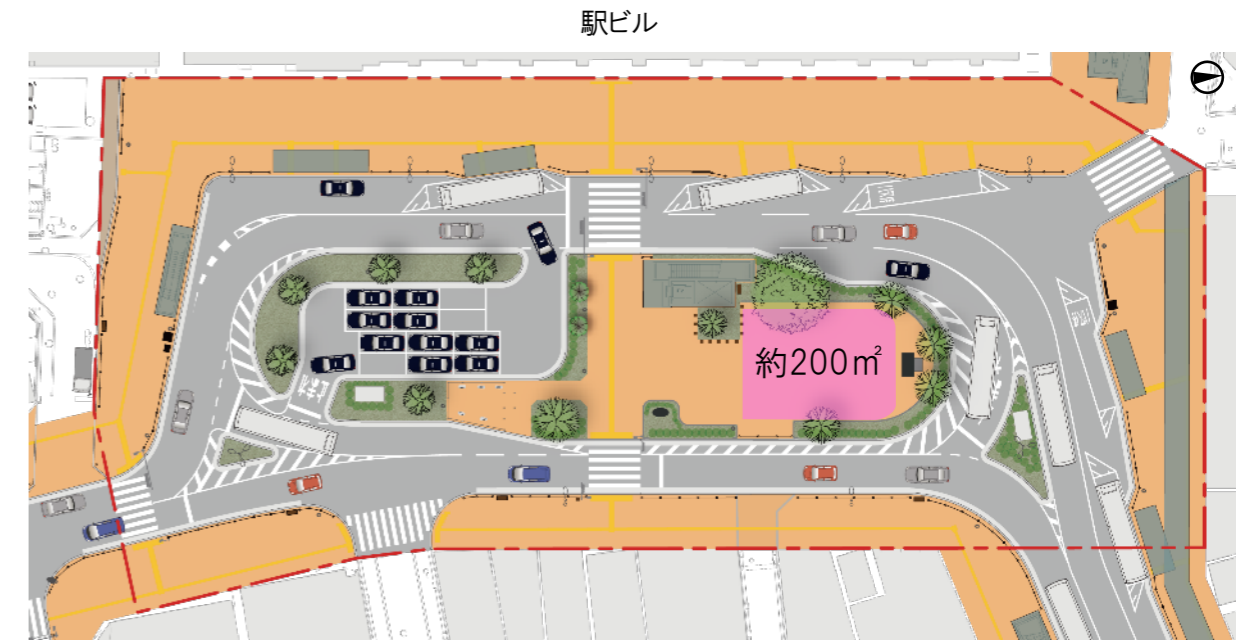
「まちとつながり賑わい溢れる駅前広場」

- ・ イベント等によるまちの活性化に繋がる賑わいのある駅前広場を目指します
- ・ 緑による快適な滞留空間を設け、かつ駅前広場とまちの連続性を高めます
- ・ すっきりとした空間とし、地区としての一体性を高めます



交通島にはイベント等に利用できるオープンスペースが200㎡程度確保される計画となっています。

現在の東口駅前広場には、駅前オープンスペースの利活用に関するルールが策定されていないことから、今後ルール作りを行っていきます。



【利活用事例】

キッチンカー 車両のみ: 約5.5~10㎡ (1.5m×3.5m~1.9m×5.0m)	テント テントのみ: 約6~18㎡ (2.4m×2.4m~3.0×6.0m)	ミニコンサート ステージ: 15~30㎡ 観客席(50人): 約80~100㎡
---	--	---



Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

2. 駅前広場整備方針と駅前広場に設置する施設の分類

駅前広場整備方針

「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」や「蒲田駅周辺再編プロジェクト」に示される駅前広場の整備方針を考慮し、**快適性・機能性が高い**駅前広場を目指します。

施設配置計画

色彩計画

※初動期整備では駅前広場整備方針に従い、標準的な製品を採用・設計することになります。

駅前広場に設置する施設の分類

東口駅前広場に設置予定の施設を分類し、東口検討部会内で配置検討を行った施設を以下に整理します。

	道路附属物	道路占用物件等	本検討部会での配置検討
①交通安全や都市計画決定により配置が決まっている施設	道路標識(道路管理者が設置するもの)、 <u>道路照明</u> 、防護柵(一部着脱式)、地下自転車駐車場の出入口・給排気施設など	道路標識(交通管理者が設置するもの)信号機など	行わない
②比較的配置の自由度が高い施設	<u>休憩施設</u> 、 <u>道路植栽</u>	<u>喫煙所</u> 、 <u>オブジェ</u>	行う
③施設管理者がJRや道路管理者と協議が必要な施設		電気地上機器、バス電光掲示板、バスシェルター・タクシーシェルター、電話ボックス、郵便ポスト、 <u>商店街アーケード</u> 、案内誘導サイン、その他サイン、時計など	行わない

※下線が引いてある施設については、本資料の中で配置等の考え方を示します。

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

3. 施設配置計画

(1) 基本方針

□方法1: 歩行者空間に設置する施設位置を集約化します

道路空間には多種・多数の施設が設置されます。施設配置を無造作に配置すると、はん雑な道路景観が形成される傾向があります。こうした状況を避けるべく、道路空間に設置される施設を適切に集約し、まとまりのある道路景観を形成することを目指します。

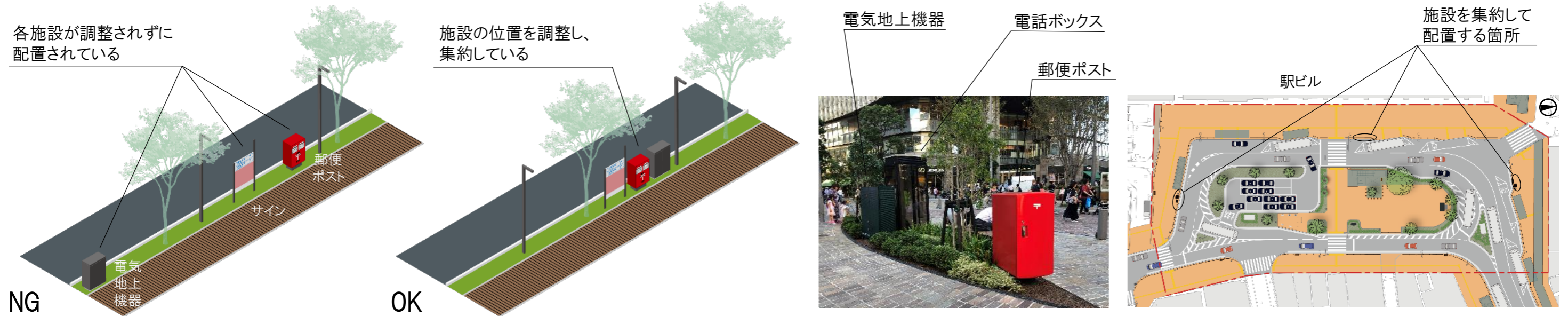


図. 施設集約の考え方

□方法2: 各施設の高さを考慮した標準施設配置を設定します

高さの異なる施設を無造作に配置すると、はん雑な景観が形成される傾向があります。すっきりとした駅前景観を形成するため、背丈の高い施設と低い施設の標準的な配置位置を設定します。また、樹木が駅前のランドマークとなるように、施設の高さを調整します。

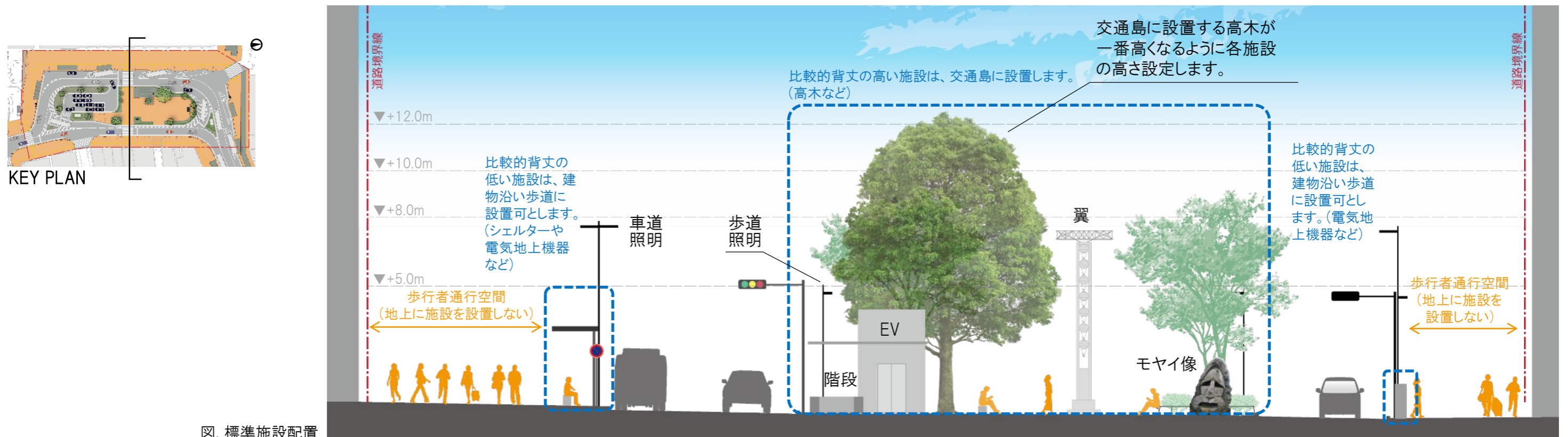


図. 標準施設配置

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

3. 施設配置計画

(2) 個別施設

① 道路照明施設の整備方針

1. 駅前広場整備方針と「増補改訂版 道路の移動等円滑化整備ガイドライン」を参照して配置検討を行います。
2. 歩道は平均路面照度20 lxを確保するように計画します。
3. 車道照明の高さを約8.0m、歩道照明の高さは約5.0mを標準とします。
4. 設置する道路照明施設数が少なくなるような配置計画とします。
5. 交通島には演出性の高い庭園灯や投光器の設置を検討します。

※照度分布検討は、現在市販されている標準的な製品を用いて検討を行います。駅前広場の初動期整備が行われるまでに、現在よりも性能の高い製品が市場に流通した場合には、道路照明の配置を再検討します。

※照明の設置位置は、今後の検討により変更となる可能性があります。

【参考】
照明施設例



車道照明(H=約8.0m)



歩道照明(H=約5.0m)



庭園灯



投光器

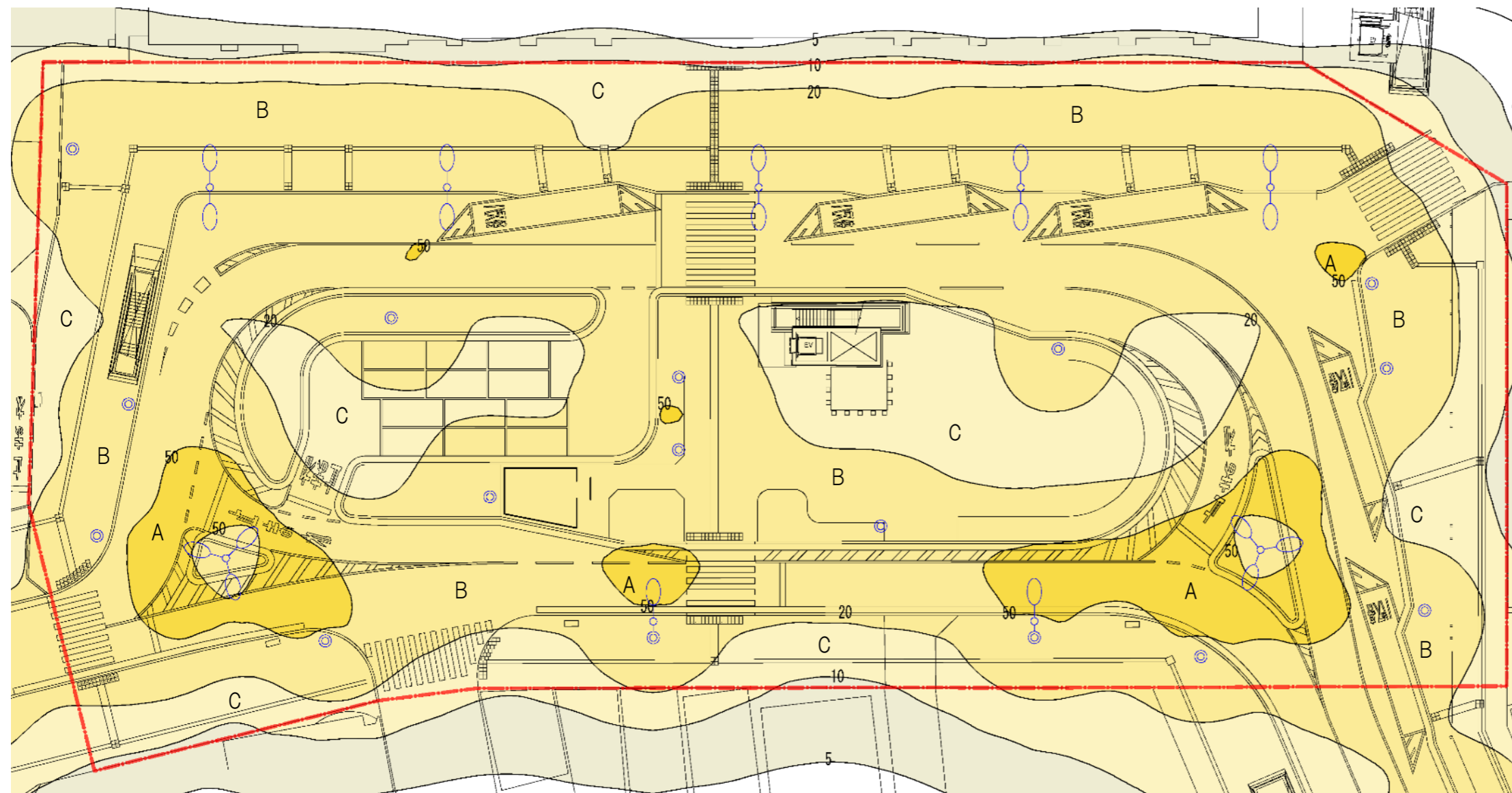


図. 照度分布

照度分布の検討条件

- 道路照明からの光のみを考慮します。(沿道建物等からの漏れ光や屋外照明は考慮していません。)
- 庭園灯と投光器の光は考慮しません。

【凡例】

- 車道照明
- 車道+歩道照明
- 歩道照明

A	50 lx～
B	20～50 lx
C	10～20 lx
D	5～10 lx

【参考】 照度に関する指標

10メートル先の人の顔及び行動が明確に識別できる
:50 lx以上

10メートル先の人の顔及び行動が識別できる程度
:20 lx以上

(出典:警察庁「安全・安心まちづくり推進要綱」の改正について(通達))

III. 東口駅前広場の整備計画

3. 施設配置計画

(2) 個別施設

②案内誘導サインの整備方針

1. 駅前広場整備方針に従い、設置するサインは分かりやすく、最小限とします。
2. 案内誘導サインは、提供・発信する情報の内容や歩行者通行量を考慮して設置検討を行います。
3. 蒲田西口駅前広場のサイン計画や大田区「案内誘導サイン整備ガイドライン」(H29.03)との整合を図ります。

※既存のその他サインにつきましては、占有者と適切な配置になるよう協議します。

■設置するサインの種類

観光案内サイン

蒲田東口駅前広場を中心として、周辺施設等の位置関係を案内するサインです。既設観光案内サインの再設置を行う方針とします。



既設観光案内サイン

駅前案内サイン

主に、東口駅前広場周辺の公共交通施設の位置を案内するサインです。バス電光掲示板との連携を検討していきます。



蒲田西口駅前広場に設置されている駅前案内サイン

【参考】



既設バス電光掲示板



現在駅前広場に設置されている案内誘導サイン以外の禁止規制サインなど

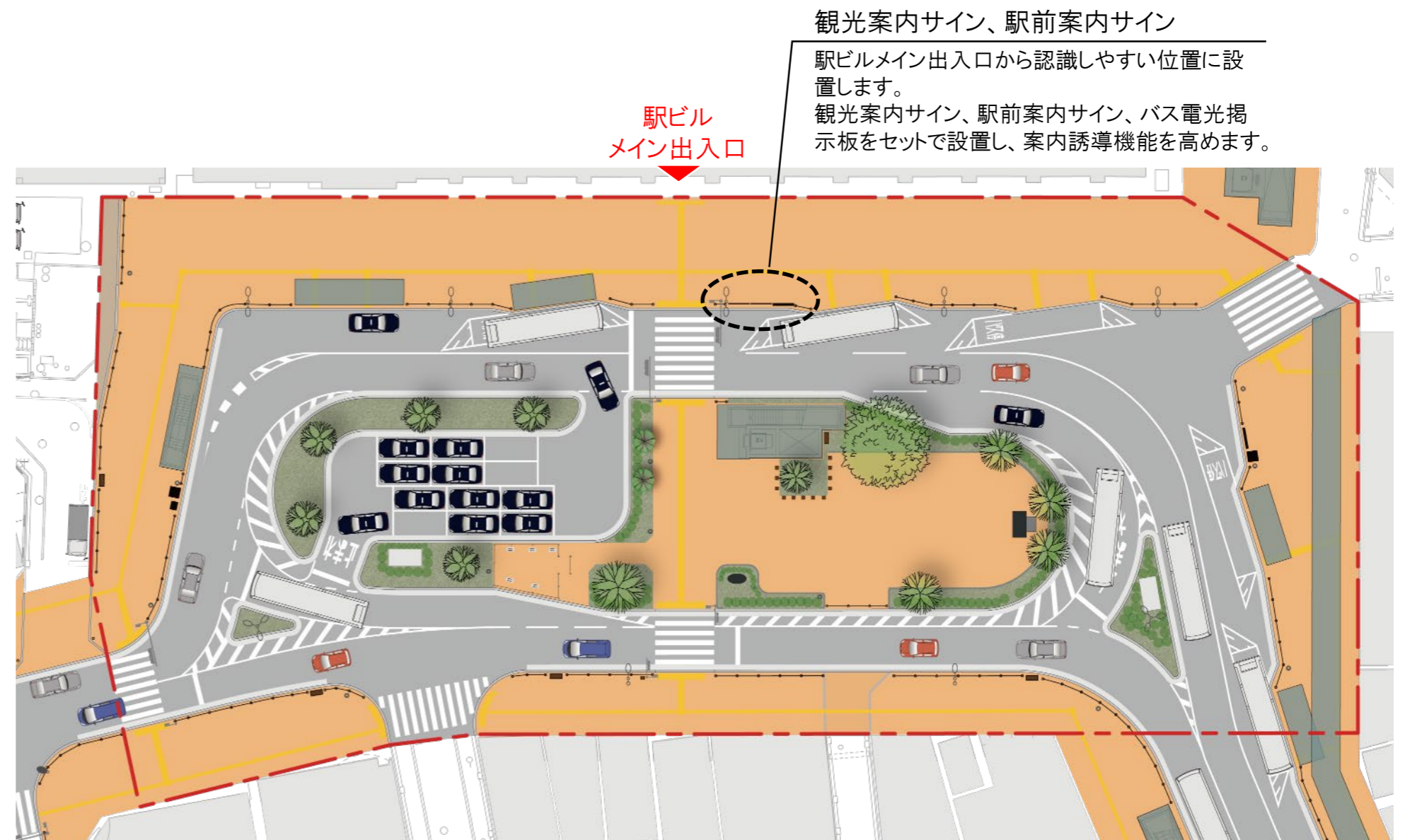


図. 案内サイン設置位置

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

3. 施設配置計画

(2) 個別施設

③喫煙所の整備方針

1. 喫煙所は交通島に設置します。
2. 喫煙所の規模は、既設と同等規模(約25㎡)で、検討します。
3. 喫煙所は、歩行者動線からなるべく離れた位置に検討します(5mくらい)。

※法令等の動向を注視してまいります。

【参考】



屋外喫煙所事例 @ 池袋駅東口 閉鎖型喫煙所事例 @ 芳林公園

④休憩施設の整備方針

1. 休憩施設は交通島に設置します。
2. 休憩施設は歩行者動線の近くに設置します。
3. 休憩施設として、1人用スツールと腰掛パイプを下図のとおり設置します。
4. スツールは、高齢者から子供まで幅広い世代の人々が利用できるように、腰掛パイプは比較的若い人たちが利用することを想定しています。

【参考】休憩施設事例



スツール 腰掛パイプ

⑤オブジェの設置方針

1. 「モヤイ像」と「翼」を再設置します。
2. 「モヤイ像」は待ち合わせの目印として位置付け、歩行者動線の近くに設置します。
3. 「翼」は羽田の玄関口である蒲田を象徴するものと位置付け、歩行者から視認しやすい位置に設置します。また、背丈が高いため全体像を視認するためには一定程度離れた位置から眺められるようにする必要があります。そのため、交通島の半円部に設置します。

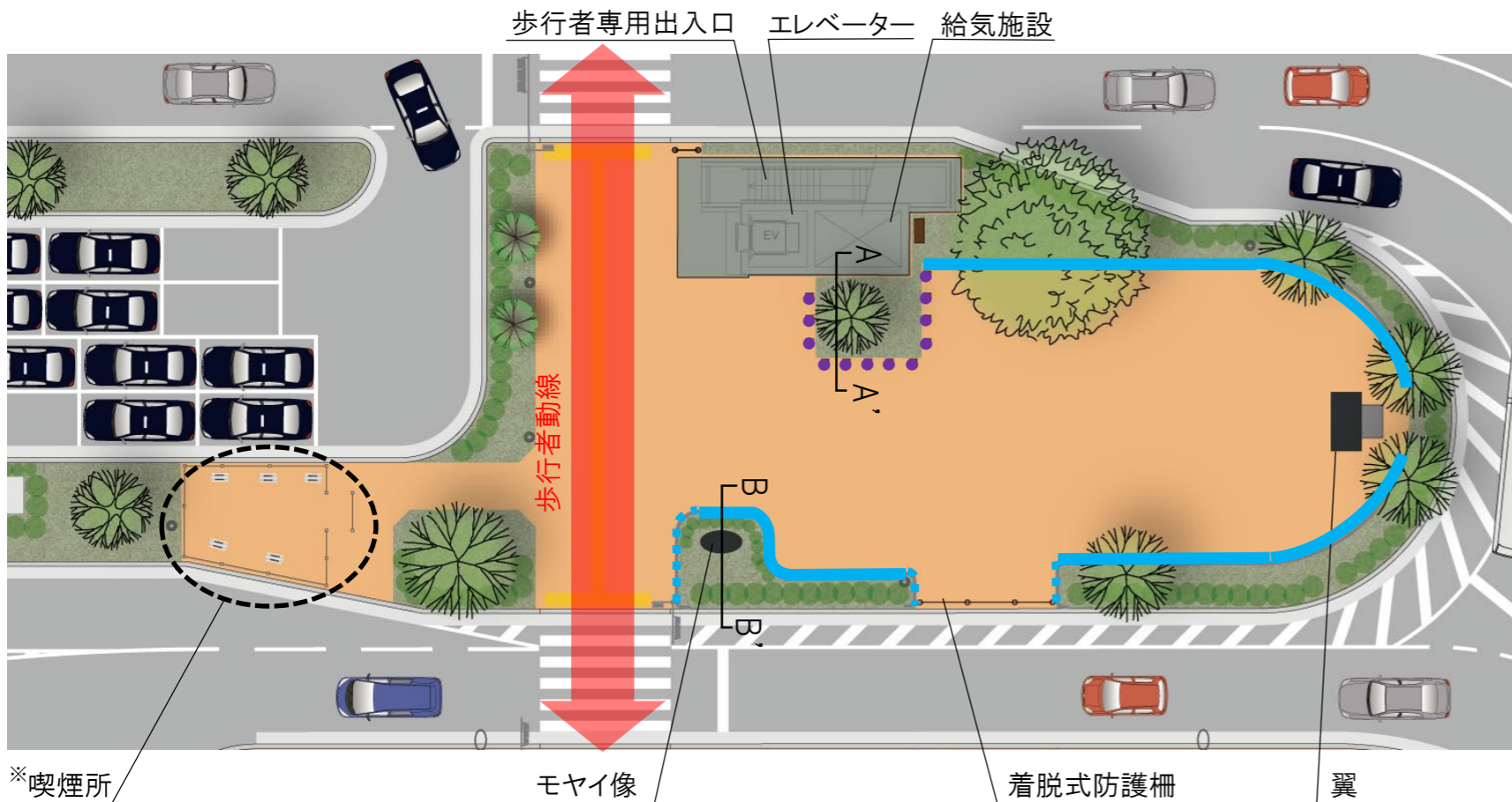
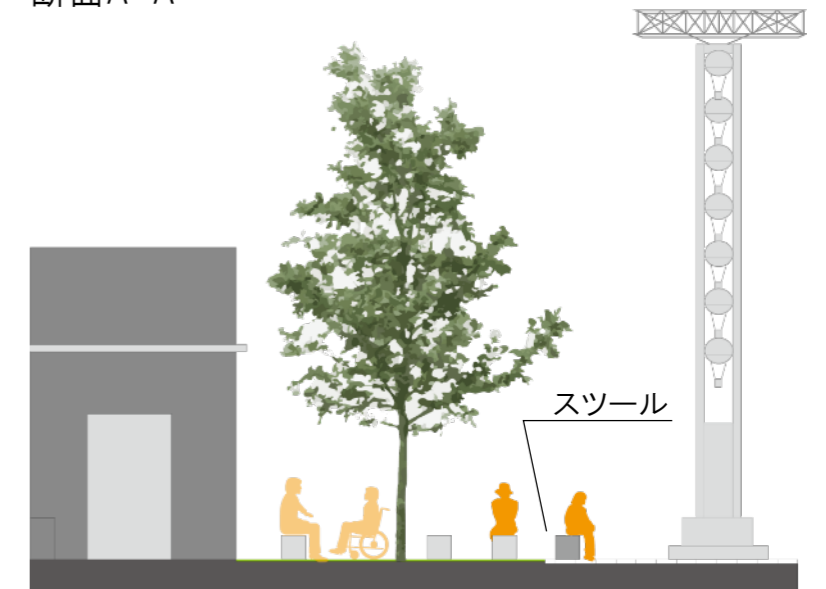


図. 喫煙所、休憩施設、オブジェ設置位置

断面A-A'



樹木とエレベーター+給気施設を背景としてスツールを設置します。

断面B-B'



モヤイ像と植栽を背景として腰掛パイプ(金属製)を設置します。

- 【凡例】
- スツール
 - 腰掛パイプ
 - 植栽帯防護柵

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

3. 施設配置計画

(2) 個別施設

⑥ 道路植栽の整備方針

1. 交通島を※クールスポットとして機能させるため、交通島を中心に植栽を行います。
2. 植栽配置は、交通視距や休憩施設の位置、地下出入口の位置を考慮して検討します。
3. 冬に日差しが地表に届くように、中高木は落葉樹を中心に選定します。
4. 季節感を演出するため、紅葉する植栽や芳香のする植栽を選定します。
5. 既設の記念樹ウメ2本は目立つ位置に移植します。

※大田区ではJR蒲田駅から京急蒲田駅間を中心に、周辺エリアの広場・公園緑地をはじめとした公共施設等の街なかのオープンスペースを活用した、四季折々の街の魅力の創出、厳しい夏季の熱暑の緩和や快適性を提供するクールスポットづくりを進めこれらを道路や河川、商店街等でネットワーク化することにより、街なかの回遊性を高めていくことを目指しています。

東口駅前広場は、街を回遊する際のサービスや情報の拠点となる拠点クールスポットに位置付けられています。(資料 クールスポットネットワーク基本構想・計画概要 都市基盤整備部都市基盤管理課)

(注1) 本検討部会では、樹種の選定までは行いません。

(注2) 樹木の高さは、生育後の想定高さを示しています。

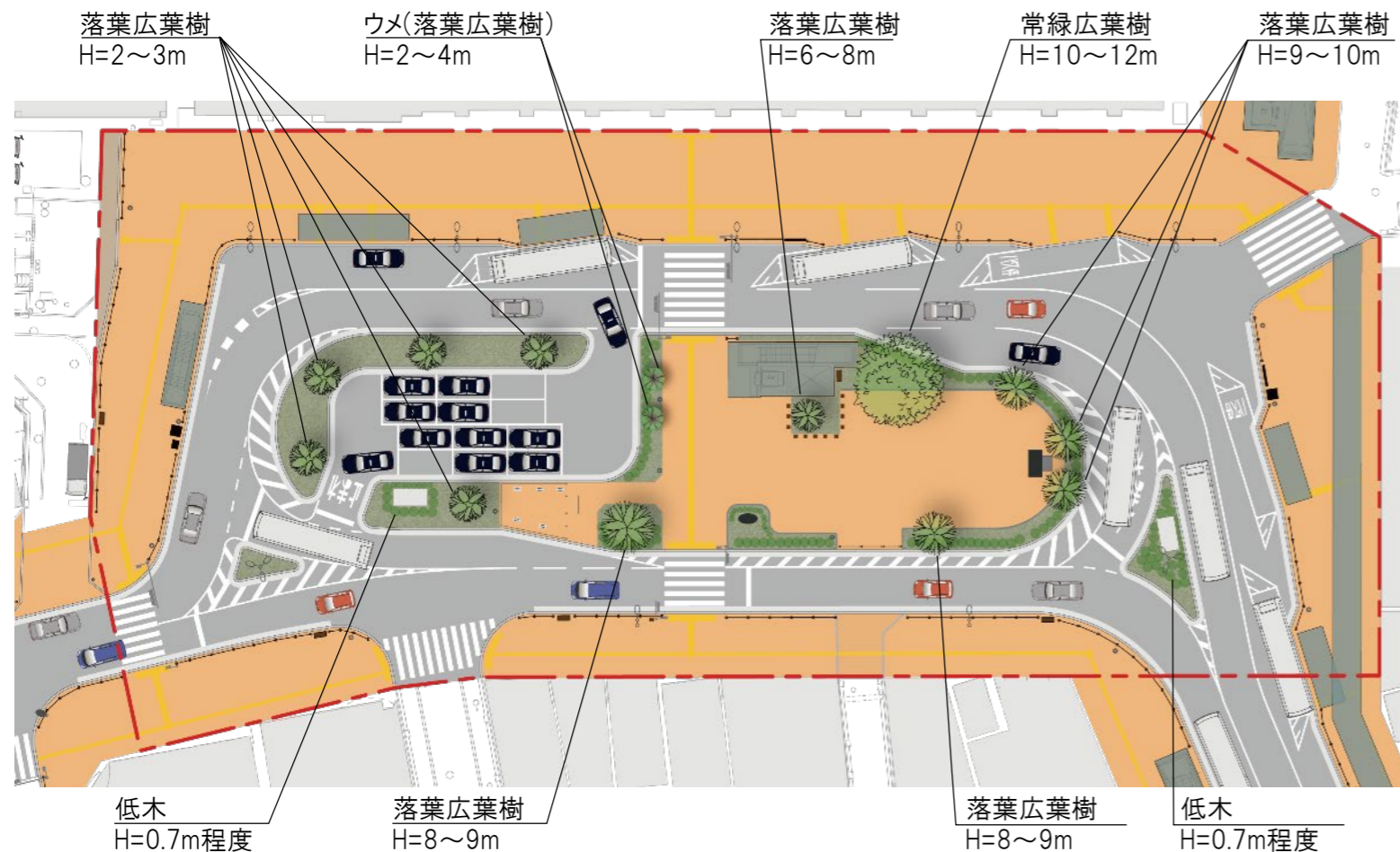


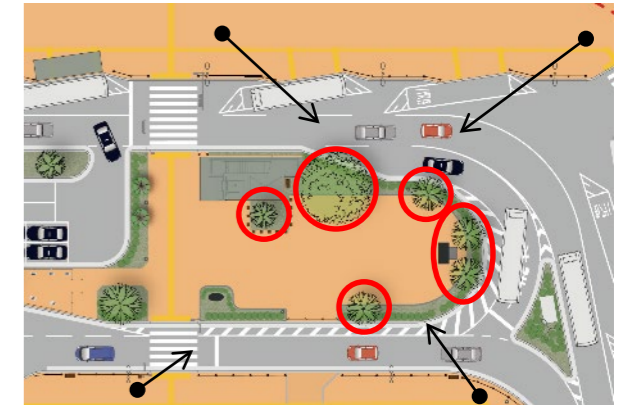
図. 植栽配置

■ 植栽配置の考え方

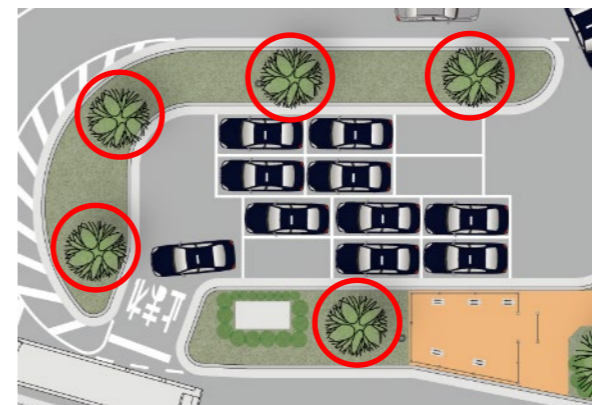
A. 排気施設の周りには低木を配植し、周囲から目立ちにくくします。



B. 駅前歩道から交通島を見た際に、緑を感じられるような高木配植とします。



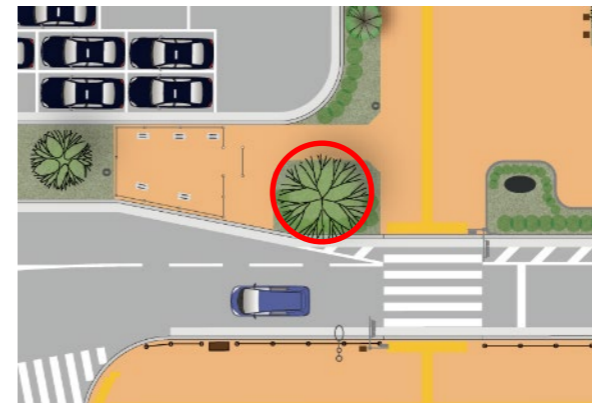
C. タクシー待機場の周囲に中木を配植し、車が目立たない様にします。



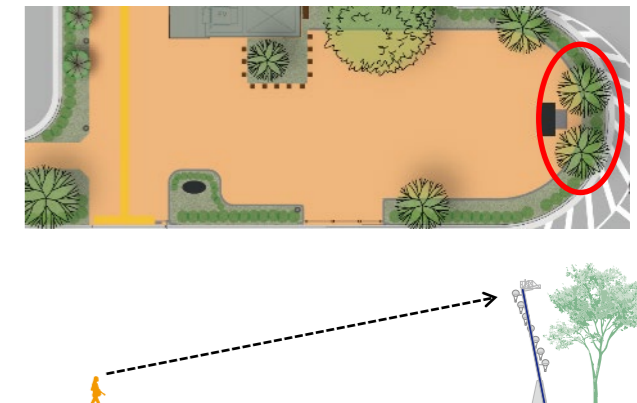
D. ウメの樹は、歩行者の目に付きやすく、日照条件の良い場所に配植します。



E. 喫煙所と交通島の歩行者動線を遮る位置に植栽を配植します。



F. 「翼」の背後に高木を2本程度配植し、「翼」への視認性を高めます。



Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

4. 色彩計画

色彩計画では、次のことを定めます。

- ①歩道舗装のパターンと基本色
- ②道路照明や防護柵などの基本色

(1) 基本方針

1. 東口駅前広場に使用する色彩は、沿道建物との調和を考慮して定めます。
2. 「大田区景観計画」(H25.10)との整合を図ります。

(大田区景観計画における色彩の考え方)

- 大田区を特徴づけるみどりや水辺を活かすという視点から、建築物、工作物の色彩はその背景として、比較的落ち着いた色彩を基調とし、周辺と調和した色彩を使用することとします。
- ◇地域の特性を踏まえた色彩を基本とします。
 - ◇原色に近い鮮やかな色彩の使用や極端に明るい白や暗い黒は避け、周辺環境と調和した色彩を基本とします。
 - ◇緑の多い地域では、緑地等との調和に配慮し、暖色系の色彩の使用を基本とします。
 - ◇周囲から突出しないよう、色の組み合わせや、塗装パターン等の配色に配慮した色彩計画を誘導します。

「大田区景観計画」p. 138

東口駅前広場を取り囲む現在の色彩

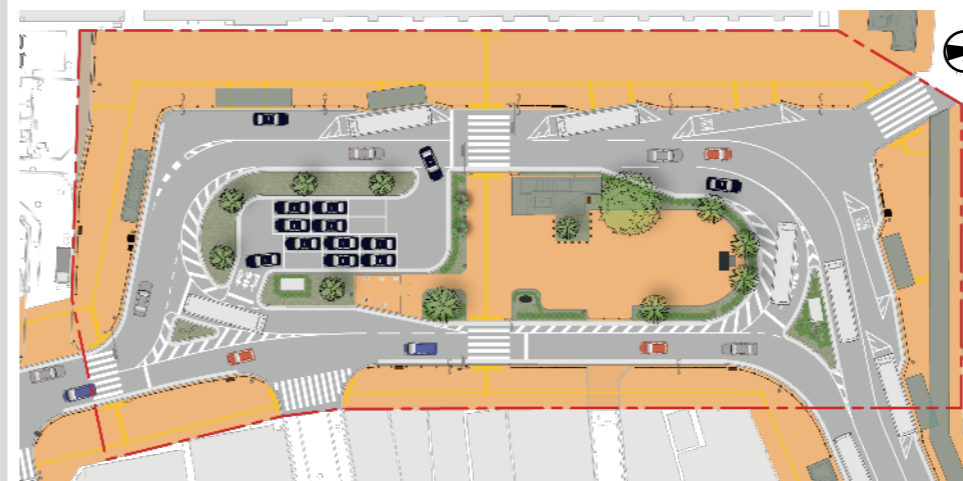
西側

ベージュ系とダークブラウン系を中心とした色彩が用いられていることから、比較的落ち着いた印象を受けやすい。



南側

オフグレー系の色彩を用いている建物が多いこと、建物見付面積が小さく視線の抜け良いことから、比較的開放的な印象を受けやすい。



北側

大きさの異なる看板が並んでいること、原色が多用されていることから、比較的是ん雑な印象を受けやすい。



東側

大きさの異なる建物や看板が並んでいること、原色が多用されていることから、比較的是ん雑な印象を受けやすい。

特徴の異なる沿道景観に面していることを考慮する必要があります。

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

4. 色彩計画

(2) 個別施設

① 歩道舗装の整備方針

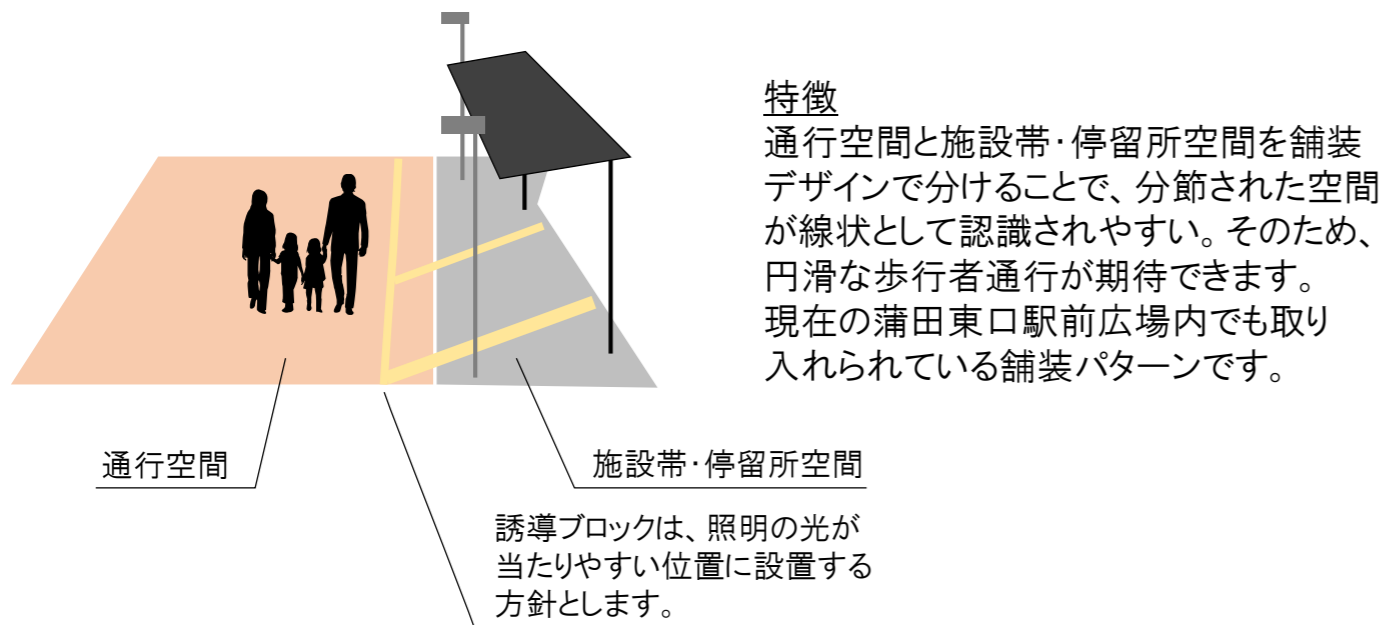
1. 駅前広場整備方針に従い、歩道舗装には標準的な製品を採用します。
2. 歩行者空間の舗装材は、透水性舗装とし、滑りにくく、凹凸の生じにくい(不陸の起きにくい)製品を採用します。
3. 舗装材は、高低差処理と歩道幅員が広いことを考慮して、300角のインターロッキング、または平板ブロックを使用します。
4. 誘導ブロックとその周囲の舗装材との間で一定の※輝度比を確保します。
(舗装に使用される色彩の種類が増え、舗装面がはん雑になる可能性が高いため、輝度比を確保するための縁取りを行わない色彩を採用します。)

※輝度比とは、異なる物体間のコントラスト比のことであり、コントラスト比が高いほど濃淡が強いことを示します。
※誘導ブロックの配置は、今後関係団体との協議結果により変更となる可能性があります。



輝度比を確保するために縁取りが行われている事例

パターン：通行・滞留空間の分離を強調したデザインとします

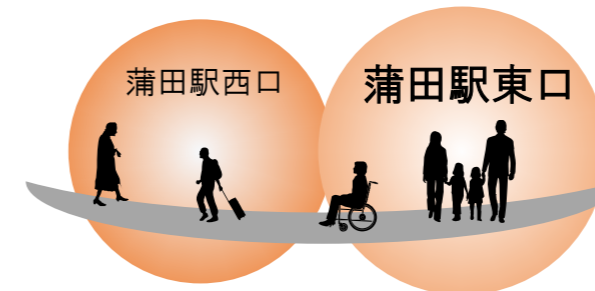


柏の葉キャンパス駅 西口駅前広場

池袋 グリーン大通り

色彩：暖色系を※基本色として採用します

※基本色とは、各施設の大部分の面積に用いられる色彩のことです。



蒲田駅東西駅前広場の一体性を高めるため、西口駅前広場で採用されている暖色系の舗装材を、東口駅前広場でも採用します。



蒲田西口駅前広場

景観アドバイザーのコメント

暖色系は暖かみを感じやすく、植栽との相性が良い色彩である。既設の商店街アーケードの色彩との調和を考慮する必要がある。

III. 東口駅前広場の整備計画





4. 色彩計画

(2) 個別施設

②道路照明や防護柵などの施設

道路照明や防護柵などの施設の色彩は、「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」に示される色彩の中から、舗装の基本色に合う色としてダークグレーを選択します。

表.「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」の中で示される基本とする4色

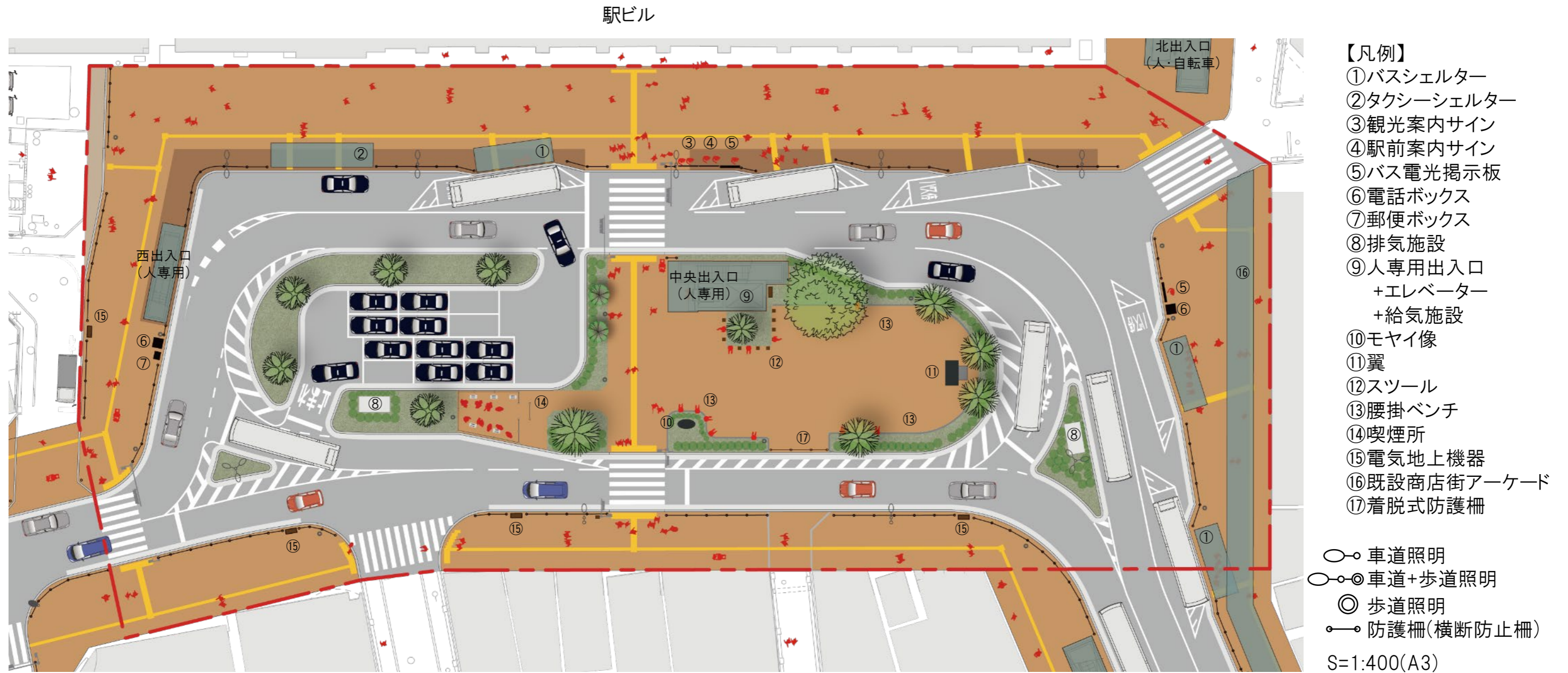
	名称	※マンセル値	参考色	使い分けの留意点(○:長所 ◇:短所)	景観アドバイザーのコメント
1	ダークグレー (濃灰色)	10YR 3.0/0.2		○都心部や駅周辺など、景観をコントロールする場合の使い勝手が良い ◇塗装面が大きい道路附属物等への使用や、開放的な沿道空間のある道路での使用は、重たい印象となることがある	市街地の景観に合わせやすい色彩である。 周囲とのコントラストが付きやすい。
2	ダークブラウン (こげ茶色)	10YR 2.0/1.0		○明度、彩度が低いため歴史的な街並みと調和しやすい ◇塗装面が大きい道路附属物等への使用は、重たい印象となることがある	歴史的な街並みで採用されることの多い色彩である
3	オフグレー (薄灰色)	5Y 7.0/0.5		○周辺が比較的明るい色彩を基調とする地域の景観と調和しやすい ◇明度が高いため、夜間景観において光を反射して必要以上に目立つ場合がある	目立ちにくく、周囲の景観に溶け込みやすい。
4	グレーベージュ (薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0		○開放的で明るい色彩を基調とする地域の景観と調和しやすい ◇明度が高いため、夜間景観において光を反射して必要以上に目立つ場合がある	-

※マンセル値とは…

マンセル表色系の中で示される色彩に関する情報であり、色相、明度、彩度の3属性によって記述されます。

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

5. 計画平面図



※今後レイアウトに変更が生じる可能性があります。
 ※時計機能は設計の中で検討します。

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

6. イメージパース



※詳細につきましては今後設計を進める中で検討してまいります。

Ⅲ. 東口駅前広場の整備計画

6. イメージパース



※詳細につきましては今後設計を進める中で検討してまいります。